

友だちに なろう

～養護学校との交流～

目標・ねらい

- 養護学校の友達のよさを感じ、積極的に関わっていくことができる。
- 障害を持つ友達に対する理解をし、仲良くなるためにはどうすればよいかを考えることができる。
- 交流して心に残ったことや友達との関わりから学んだことを、絵や文にまとめ、発表することができる。
- 障害を持つ友達と仲良く活動することで培った思いやりの心を、他の場面でも生かすことができる。

教育課程上の位置づけ
生活科

事前指導・経緯

○ビデオレターにより、養護学校の友達を知り、交流会への関心を高める。

★養護学校の友達一人一人が自己紹介をする様子が収録されたビデオレターが東小に送られてきた。このビデオ視聴がきっかけとなって活動が始まった。(ビデオ視聴・生活科)

○自己紹介カードを作成し、養護学校の友達に送る。

★だれが、養護学校のどの友達と交流するのかを話し合い、グループ作りをする。自分の写真と名前がはっきりわかるように自己紹介カードを作成し、交流する養護学校の友達に送る。

(自己紹介カードの作成
生活科)

○養護学校の友達と協力し、楽しく過ごすためにはどのような工夫をしたらよいかを考え、交流会の計画を立てる。

★どんな交流会にするか

- ・友達への接し方
 - ・交流活動の内容
 - ・役割分担
 - ・準備するもの
 - ・プレゼントの用意
 - ・会場の装飾
- (交流会の計画・生活科)

○養護学校と小学校との交流活動は、15年以上前から続けられている活動である。この交流活動を生活科の学習として位置づけ、年間20時間で3回の交流会を、2年生が中心となって行っている。

第1回交流会（養護学校にて）

- ・小学校の児童が養護学校を訪問し、交流会を行う。
- ・養護学校の友達を知る。

第2回交流会（小学校にて）

- ・養護学校の友達を小学校に迎えて、交流会を行う。
- ・関わり方を考える。

第3回交流会（丸山公園にて）

- ・一緒に丸山公園に出かけて交流会を行う。

○役割を分担し、協力して交流会の準備を行う。

- ・グループごとに分担して活動に使用するものを作る。
- ・グループの友達にプレゼントするものを作る。
- ・看板や入り口の装飾をする。

(交流会の準備・生活科)

○アンケートにより、意識調査を行う。

- ・養護学校の友達と遊んでみたいですか。
- ・どんな交流会にしたいですか。
- ・交流会でやってみたいことは何ですか。
- ・交流会で、がんばりたいことは何ですか。
- ・あなたの周りで体の不自由な人がいたら、進んで助けることができますか。(意識調査・生活科)

実施内容

～交流会～

始めの会

- ・始めの言葉
- ・学校長歓迎の言葉
- ・歌（手話をつけて）
「世界中の子どもたちが」
- ・終わりの言葉

交流活動

- ・友達をさがせ
- ・ボール運びリレー
- ・色合わせゲーム
- ・バレエダンス

終わりの会

- ・始めの言葉
- ・小学校児童あいさつ
- ・養護学校児童あいさつ
- ・歌「さよなら」
- ・終わりの言葉
- ・花のアーチで見送り

○障害のある人と進ん

でふれあい、楽し

く活動する。

○ふれあいを通して、
思いやりの心を育
てる。



事後指導

- 交流活動で心に残ったことを絵や文で表現する。
- 交流会での活動場面を振り返り、よかった点、改善した方がよい点について考え、次の活動につなげていく。
(振り返りカードの活用)



友だちになろう

かっどうのふりかえり	(月 日)
① きょうかして じぶんが楽しめた。	◎
② 友だちに やさしくできた。	◎
③ 友だちと きょうかして かっどうした。	◎
④ みんなよく しゃべった。	◎
⑤ 友だちに すずんで 声をかけた。	◎
⑥ 楽しく かっどうできた。	◎
⑦ みんなで 話を聞いて かっどうした。	◎
⑧ すずんで かわりのしごとをした。	◎
フル フル楽しむ	○

〇〇ちゃんといっしょに木のさへり根を
しゃべりました。とても楽しかったです。
まはいいいにおきていました。

よくて学校のまじらとしゃべたら〇〇ちゃんか
わらってしゃべっておいしくたべたかんはと
いっしょにしゃべるとかいいいな。

〇〇ちゃんわたくしの体にしかかかって
しゃべっててくれた。たかたか〇〇ちゃんはわたくし
にっかひのうでしゃべらないかな、おもしろい。

- 交流活動が、その場のみに留まることなく、「養護学校の友達と、もっと遊びたい。」「お互いの気持ち
がわかるように仲良くしたい。」「自分にできることがあったら、何か手伝いたい。」という気持ちに
まで高められるようにする。
- 学校や家庭、地域で体の不自由な人を見かけた時、「何かお手伝いできることはありませんか。」と、
進んで温かな言葉かけができるように実践化に結びつけた活動にまで高められるようにする。
(いつでも、どこでも、だれにでもできるボランティア活動・温かな言葉かけ・思いやりに
あふれた行為)

取組の評価

- 子どもの意識の変容について
(アンケート・振り返りカード・活動の様子から)
- 交流会に向けての計画・準備について
- 交流会での活動内容について
- 養護学校の友達と仲良く活動するために、自分には何が
できるのかを考えることができるようになった。
- 養護学校の友達と活動することによって、障害を持つ友
達の存在を知り、自分なりの関わり方をするようになっ
た。
- 養護学校の友達と一緒に活動を楽しむことができるよう
になった。

資料1 生活科指導案

第2学年 生活科学習活動案

1 単元名 友だちになろうⅡ

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容(3)「自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」を受けて構成したものである。

地域の施設として、本校の近くに養護学校があることから、養護学校の友達との交流は、15年以上続けられている。そこで、本年度、福祉教育を実践するにあたり、この地域交流を生かしていきたいと考えた。この交流を、障害を持つ人と接する場とし、思いやりの心を育てていきたいと考える。まだ純粋さの多く残るこの時期であれば、自分と違うところのある友達を、素直にストレートに受け入れられるのではないかと考え、2年生が中心となり、交流会を行っている。この時期から、障害のあるなしにかかわらず、互いに人権を尊重し合うことが心のバリアフリーにつながると考えられる。

本単元は、「友だちになろうⅠ」を受け、2回目の交流となる。1回目は、養護学校に出かけ活動をともし、お互いを知る場となった。今回は、本校に養護学校の友達を迎え交流会を行うこととなる。

1回目の交流会を終えて、養護学校の友達を知り、接し方にも少しずつだが相手を気づかう様子が見られるようになってきた。2回目となる今回は、児童の自主的な活動の場を設定し、より深まりのある交流ができるようにしたい。そして、人とかかわる時に大切な優しさや思いやりの心に気づき、自分の生活の中に取り入れられるように支援していきたい。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 考察

ほとんどの子どもたちが養護学校の友達と楽しく遊ぶことができたと考えており、これは、6月の交流会を実施した成果だと捉えることができる。また、養護学校の友達とふれあう時には、「走る速さを合わせる」「優しくする」「けがをさせないようにする」「車いすを押す」等の必要性について体験的に理解してきている。他の設問についても「体の不自由な人がいたら助けたい」「助けることができるかもしれない」と思っている子どもたちが合わせて全体の9割を占めている。これも、交流会を通して養護学校の友達について知ることができた成果だと考えられる。

実際の交流会の様子を見ても、はじめは、どうふれあったらよいかとまどっていたものの、会の終わり頃には、交流活動と一緒に楽しむ子どもたちの姿が見られた。しかしながら、まだ一部の子どもたちは、自分が楽しむことに夢中になりすぎてしまい、周りの人を思いやるまでに至らない様子も見られる。また、街で出会った体の不自由な人に声をかけたり助けたりすることを、恥ずかしいと感じている子どもたちもいる。

そこで、人とかかわる時に大切な優しさや思いやりの心に気づかせるため、さらに、日々の生活の中での実践化が図れるようにするために、活動の場を工夫し、今まで以上に心の通い合う交流にしていきたい。

3 単元の目標

- 養護学校の友達を知り、進んで仲良く活動しようとする。(関心・意欲・態度)
- 養護学校の友達と協力し、楽しく過ごすためにはどのような工夫をしたらよいか考えることができる。(思考・表現)
- 障害のある人と進んでふれあい、友達の優しさや思いやりに気づくことができる。(気づき)

4 学習活動のねらい及び仮説との関連

養護学校の友達との交流やビデオレターを通して、障害を持つ友達に対する理解と認識が深まりつつある。その友達との接し方を子どもなりに体験し学んできたことで、自分の周りのことをゆとりを持って見るができなかった2年生の子どもたちが、周りの友達のことを少しずつ考えることができるようになってきている。

そこで、今回の交流を通して、障害を持つ友達に対する理解をさらに深め、共に活動することの喜びを感じさせていきたい。そして、その接し方もまた、一人一人の子どもたちが前回の交流体験を生かし、各グループの友達に優しくしたり思いやりを持ってリードしたり、仲良く協力しながら接することで、互いの良さを感じながら生き生きと活動できるようにしていきたい。

さらに、この交流がこの場のみに留まることなく、「養護学校の友達と、もっと遊びたい。」「お互いの気持ちがわかるように仲良くしたい。」「自分にできることがあったら何か手伝いたい。」という気持ちにまで高めていきたい。また、学校や家庭、地域で体の不自由な人を見かけた時、「何かお手伝いできることはありませんか。」と、進んで温かな言葉かけができるように、実践化に結びつけた活動にまで高めていきたい。

6 本時の学習活動（6・7/8）— 「友達になろうⅡ」

(1) 目標

- 養護学校の友達と一緒に仲良く活動しようとする。（関心・意欲・態度）
- 養護学校の友達と協力しながら、ゲームに参加することができる。（思考・表現）
- 障害のある人と進んでふれあったり、友達のやさしさや思いやりに気づくことができる。（気づき）

(2) 展開（10:05～11:35 90分）

時間	過程目標	学習活動と内容	支援と評価 (◎)	資料
10:05	○養護学校の友達と、仲良く会に参加することができる。	1 始めの会を行う。 進行（1組） ・始めの言葉（3組） ・歌 テーマソング 「世界中の子どもたちが」 テープ（2組） ・校長先生のお話 ・終わりの言葉（2組）	○養護学校の友達と向かい合って並び、この時間どんな態度で臨めばよいかを考えられるようにする。 ○これからの交流会が楽しく始められるように、養護学校の友達と一緒に大きな声で元気よく歌うようにする。 ◎養護学校の友達と仲良くしたい気持ちを伝えることができたか。（観察）	歌詞カード カセットテープ
養護学校の友達と 仲良く遊ぼう。				
10:15	○養護学校の友達と、楽しくゲームをすることができる。	2 楽しく交流活動を行う。 進行（1組） ○「友達を探せ」のゲームを行う。 ・自分たちの交流グループの友達を探し、リレー形式で順に行いゴールする。	○事前に係の児童に話し合いの機会を持たせ、ゲームがスムーズに流れるよう活動させたい。 ○ゲームを一緒に行うことから、仲良くしていくためにはどうしたらよいか考えながら行動するよう助言する。 ○養護学校の友達を支援しながら活動している児童を賞賛する。 ◎自分たちの交流グループの友達を探しに行き、援助ができたか。	
10:35		○「ボール運びリレー」を行う。 進行（2組） ・ボール2個を布にのせて	○養護学校の友達のスปีドに合わせて、優しくリードしたりして、協力して活動できるよう助言する。	ボール ふろしき

10:50		運び、リレー形式で順に行いゴールする。	○取っ手のついた持ちやすい部分を養護学校の友達がもてるよう援助している児童を賞賛する。	4色の旗色紙
WC 11:10		○「色合わせゲーム」を行う。 進行（3組） ・曲に合わせて旗の周りを歩き、止まる。封筒からひいた色紙と同じ色の旗の近くにいたグループが勝ちとなる。	○車いすの友達を押ししたり、優しく言葉かけをしたりしながら、一緒にゲームを楽しむことができるようにする。 ○養護学校の友達と勝ったことを喜び合えるようにする。 ○けがをせず、楽しく活動できるよう助言する。	
11:20		○「バールンダンス」を行う。 進行（1組）	○養護学校の友達の動きに合わせてダンスができるようにする。	バルーン
11:25	○活動を振り返りながら交流会のよさに気づくことができる。	○「心をこめてありがとう」 ・養護学校の友達に手作りのプレゼントを渡す。 進行（2組）	○養護学校の友達と一緒に楽しい時間が過ごせたことに感謝して手作りのプレゼントを心をこめて渡すことができるようにする。 ◎協力して、仲良く活動ができたか。（観察・振り返りカード）	歌詞カード カセットテープ
11:35	○楽しかった交流会を振り返りながら、見送ることができる。	3 終わりの会を行う。 進行（3組） ・始めの言葉（1組） ・小学校児童挨拶（2組） ・養護学校児童挨拶 ・歌「さよなら」テープ（2組） ・終わりの言葉（なかよし学級）	○活動を振り返りながら終わりの会に臨めるようにする。 ○人とかかわるときに大切な優しさや思いやりの心に気づき、自分の生活の中に取り入れることができるよう助言する。 ◎交流活動を通して、人とかかわることの楽しさを味わうことができたか。（観察・振り返りカード）	花のアーチ
		4 養護学校の友達を温かな気持ちで見送る。	○養護学校の友達と楽しく過ごしたことを振り返りながら、見送ることができるようにする。 ○恥ずかしくて声に出せない児童には、握手でもよいと助言する。 ◎温かい別れの言葉をかけることができたか。（観察）	

【参考】

6月4日の交流会をきっかけにして、夏休みの自由研究に「ひいおばあちゃんの介護」の問題を取り上げ、レポートにまとめてきた姉妹がいた。



資料2 成果と課題

(1) 子どもの意識の変容

活動の振り返り	10月13日	11月10日
協力して準備をした。	85%	86%
友達にやさしくできた。	78%	92%
友達と協力して活動した。	85%	91%
仲良く遊んだ。	81%	88%
友達に進んで声をかけた。	66%	87%
楽しく活動できた。	95%	97%
安全に気をつけて活動した。	76%	87%
進んで係の仕事をした。	88%	86%

福祉アンケート	5月	12月
養護学校の友達と遊びたいですか。		
とても遊びたい	53%	64%
遊びたい	38%	33%
あまり遊びたくない	6%	3%
遊びたくない	3%	0%

第2回と第3回の交流会を振り返り、子ども達の意識調査を行った。この中で特に大きな変容が見られたのは、「友達に進んで声をかけた」という項目で、66%から87%の伸びを示している。これは、交流を重ねるごとに、養護学校の友達の存在が身近になり、親しみをもって接することができるようになったからだと考えられる。「一緒にがんばろう。」「だいじょうぶだよ。」「お弁当おいしいね。」「おやつ、食べる?」「アスレチックで遊ぼう。」など、こうした言葉かけが増えていったことは、うれしい変容であった。第1回の際には、「話しかけたけど答えてくれなかった。」と言っていた子ども達が、第3回では、「養護学校の

友達がにこにこしているのを見て、わたしもうれしくなった。」というように、相手の表情から、その気持ちを考えようとするようになったこと、これも交流を通して、相手の存在を認めていこうとする温かな心が育ってきたからだと思える。また、すべり台をこわがって泣いてしまった友達を励まし、すべり方を見せて、楽しくすべることができたことを、一緒に喜ぶ姿も見られるようになった。自由時間では、養護学校の友達と手をつないで、アスレチックまでの小道を楽しそうに歩いて行く子ども達の姿がこちらこちらに見られ、ほのぼのとした温かさが伝わってきた。人とかがわる感動体験を通して、相手を思いやる温かな心が育っていることを実感しつつある。

(2) 成果と課題

【成果】

養護学校の友達とふれあう感動体験を通して、共に活動する喜びや充実感を味わうことができるようになり、相手の存在を認めていこうとする温かな心が育ってきた。

交流会を重ねるごとに、養護学校の友達との接し方がわかってきて、スピードを合わせて走ったり、車いすをやさしく押したり、養護学校の友達を誘ってグループ作りをしたりなど、けがをしないように安全に気をつけて活動しようとする気持ちや相手を大切にしようとする気持ちが育ってきた。

時には励ましたり、時には誘ったりなど、養護学校の友達に笑顔で話しかける子どもの姿が増え、自分から進んでかかわりを持つようとする気持ちが育ちつつある。

第2回、第3回の交流会では、自分達が主になって会を進めていこうとする気持ちが育ち、協力して準備を進め、当日は進んで働く子どもの姿が見られた。

ニコちゃんフェスティバルでは、1年生に優しく手紙の書き方を教える子どもの姿が見られ、1円玉募金やクリーン作戦にも進んで協力しようとする子どもが増えてきた。

【課題】

「養護学校の友達ともっと交流をしたい。」という気持ちが育ってきたので、日々の生活の中でも、自分たちにできる交流活動やボランティア活動を見つけて参加できるよう呼びかけていきたい。